

# 波浪と潮流に対するペン(小さなかこい)の運動特性

長崎　作治\*

## 1. 概要

外洋に設置されるブイ型の浮遊構造物には航路標識用の灯浮標、海象観測用ブイ(直径 12 m のモンスター・ブイ)、海洋無線中継用ブイ(直立円筒型 水面直径 4.8 m 長さ海中部 100 m、海上部 35 m)、タンカー係留送油用ブイなどがある。

本文の海洋栽培構造物(Structures for Maricultures)ペン(Pen: 小さいかこいの生貝)<sup>1)</sup>は直径 20 m、高さ 10 m のわくを網でかこい、直径 5 m、高さ 15 m の浮沈用タンクを中心に設けた鋼構造体で、海面下 30 m 以上沈下することができ、1 点あるいは 3 点アンカーによつて任意位置(海面から海底面に至る)に安定して定置(砂、岩盤地盤)することができるよう開発されたものである。

浮力タンクに調整用の重錘をつけた場合、つけない場合、係留については 1 点係留、3 点係留(中間にうきを設け対潮流に最適と思われる形態)、また係留用チェーンの長さ、取付け位置をかえ、これらがどのような影響を水面、1/2 水深におかれたペンに与えるのか、作用波浪と潮流に対するペンの運動特性をモデル実験から求めたのでここに報告する。

まず波浪とシステムとの関係を確認し、最も適応する

スタイルについて、ペンに潮流だけが、波浪と潮流が同時に同方向から、波浪と潮流が同時に一方が逆方向から作用した場合、ペン(図-1)がどのような運動特性を示すか、その安定状態について 2 次元水槽で確認し、8 mm 映写機で記録し解折した。解折項目はペンの水平方向の移動距離、上下方向の距離、ペンの傾角度、鎖と地面との傾角度などを求め、それより最適スタイルを決定し、さらに深く統いて究明することとした。

## 2. 実験方法と装置

### (1) 海象条件

最大波浪( $H_{\max} = 11 \sim 13 \text{ m}$ ,  $T = 10 \sim 13 \text{ sec}$ )に潮流(1.4 と 4.6 knot)を作用させ、表-1、表-2 の条件を設定し、1:100 の縮尺で実験した。

表-1 海象条件

項目	設定条件	縮尺	模型型
水深(h)	40 m	1:100	40 cm
波高(H)	4, 10, 14 m	1:100	4, 10, 14 cm
周期(T)	10 sec	1: $\sqrt{100}$	1 sec
ペンの位置	0 と 20 m	1:100	0 と 20 cm
静水面下(d)			
潮流速(v)	1.4, 4.6 knot	1: $\sqrt{100}$	7, 23 cm/sec

表-2 波高と潮流との作用条件

波高(周期 1sec)			流速(cm/sec)			
4	10	14	7	23	-7	-13
○	○	○	○	○		
○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	
						○
					○	○
					○	○

### (2) 実験方法と装置

水槽は長さ 38 m、幅 1 m、水深 60 cm で、周期 0.63 ~ 7 sec までの波浪と、流速 50 cm/sec の流れを単独に、また波浪と同時に同方向からも逆方向からも作用させることができる。

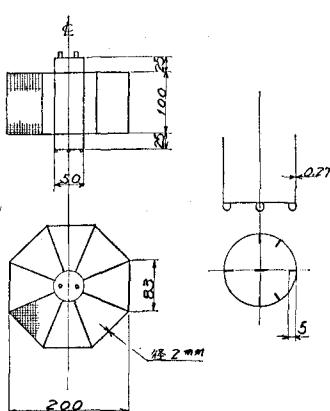


図-1 ペン(モデル寸法 mm)

全重量 174.8 g  
タンク容量 294 cm<sup>3</sup>

モデルの寸法、重量は表-3に示されるとおりである。係留チェーンの長さ  $L$  は水深  $h$  の2倍にとり、ペンは水面、 $1/2$  水深位置において海象による運動特性を求めるのであるが、この位置にペンを保たせるには調整用の重錘(カウンターウェイト)の有無によって相違があり、タンクに水を入れ位置のバランスをとるので、注入水量  $B$  を位置表示に添記した。なおカウンターウェイトの重量  $C$  は  $40\text{ g}$  である。

表-3 ペンのモデル条件

項目		設定条件	縮尺	模型
ペ ン	直 径	20	1:100	20 cm
	高 さ	10	"	10
タ ン ク	直 径	5	"	5
	高 さ	15	"	15
重 量	カウンター重量	4.175 t	1:100 <sup>3</sup>	41.75 g
	アンカー1個重量	4.175	"	41.75
	中間パイ1個重量	1.400	"	14.00
	チェーン重量	2.74 kg/m	"	0.02735 g/cm

### 3. 係留と作用波浪、潮流による運動特性

#### (1) 1点係留・カウンターウェイト付

図-2に示される形状について、アンカー重量をかえて実験を行なった。

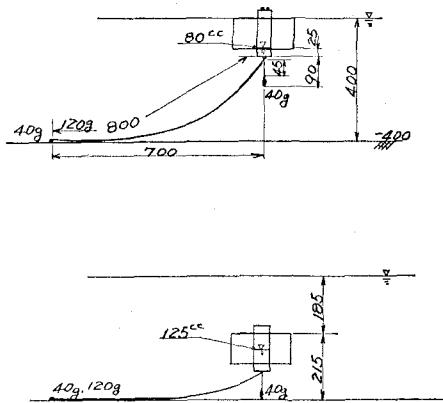


図-2 1点係留カウンターウェイト付

##### a) ペン水面位置(付加注入水量 80 cc)

アンカー重量  $40\text{ g}$  に対し、流れ  $7\text{ cm/sec}$  のみ、流れ  $7\text{ cm/sec}$  で同方向から波高  $4\text{ cm}$ ,  $10\text{ cm}$  を作用させたところ、波高  $4\text{ cm}$  までは流れ方向に標体は傾いたが一応安定した。流れ ( $7\text{ cm/sec}$ ) を波浪と逆方向から作用させたところ、 $10\text{ cm}$  の波高に対しては、波浪と流れが打ち消し、鎖たるみが安定した。 $14\text{ cm}$  の波高でもペンは左右に行きつ戻りつしながらも安定した。 $23\text{ cm/sec}$  の最大流速に対し、同方向から波高  $4\text{ cm}$ ,  $10\text{ cm}$  を作用させたところ、流れ方向にペンは傾いて(左右)移動した。

なお逆方向から  $23\text{ cm/sec}$  の流れと、波高  $10\text{ cm}$  を作

用させたところ、同様にペンは右左に傾いて移動した。

##### b) 1/2 水深位置 -18.5 cm (注入水量 125 cc)

アンカー重量  $40\text{ g}$  の場合、 $7\text{ cm/sec}$  の流れではペンは流れ方向(左右)に傾いたが安定した。 $7\text{ cm/sec}$  の流れと波高  $10\text{ cm}$  を同一方向から同時に作用させたところアンカーは移動した。よってアンカー重量を  $120\text{ g}$  とすると安定した。さらに波高を大きく  $14\text{ cm}$  としてみたが移動しなかった。アンカー重量  $40\text{ g}$  の場合、流れを逆方向から、波高  $4\text{ cm}$  を同時に作用させたところ、一応安定した。波高  $10\text{ cm}$  では不安定となった。

よってアンカーを  $120\text{ g}$  とし、波高  $10\text{ cm}$  と  $7\text{ cm/sec}$  の流れを逆方向から同時に作用させると、ペンは右から左に傾き、ペンにカウンターがからんだがアンカーは移動しなかった。流れを大きく  $23\text{ cm/sec}$  とし、波高  $4\text{ cm}$  を同時に作用させたところ安定であったが、波高  $10\text{ cm}$  ではすこしアンカーが引張られ移動した。 $23\text{ cm/sec}$  の流れを逆方向から作用させると、波高  $4\text{ cm}$  では右から左にペンは傾くが安定であった。波高  $10\text{ cm}$  では不安定であった。逆方向から流れ  $23\text{ cm/sec}$  を作用させ波高を  $4$ ,  $10$ ,  $14\text{ cm}$  と変えて作用させると、 $4\text{ cm}$  波高では右から左にペンは傾いたが安定であった。 $10\text{ cm}$  波高では不安定となり、 $14\text{ cm}$  では完全に移動した。

##### (2) 1点係留、カウンターウェイトなし

図-3に示される形状について実施した。

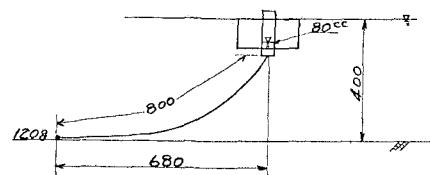


図-3 1点係留カウンターウェイトなし

水面 80cc

1/2 水深 150cc

##### a) 水面位置(注入水量 80 cc)

アンカーは  $120\text{ g}$  とした。流れ  $7\text{ cm/sec}$  の場合、ペンは左から右に傾いたが安定した。波高  $4\text{ cm}$  を同方向から作用させたところ、ペンは移動した。このとき鎖のたるみがみられた。流れを  $23\text{ cm/sec}$  とすると、波高  $4\text{ cm}$  で移動し、波高  $10\text{ cm}$  ではすぐ移動した。流れを逆方向から  $23\text{ cm/sec}$  とし、波高  $4\text{ cm}$  を同時に作用させたところ、アンカーは移動した。 $10\text{ cm}$ ,  $14\text{ cm}$  波高でも同様である。

##### b) 1/2 水深位置(注入水量 150 cc)

アンカー  $40\text{ g}$  の場合、流れ  $7\text{ cm/sec}$  のみではペンは流れ方向(左から右)に傾き、地盤との間に空間  $3\text{ cm}$  をとり安定した。 $4\text{ cm}$  波高を同時に作用させたところペンは上昇し、空間が一層大きくなったが安定であった。

しかし波高 10 cm ではベンは上昇し、分子速度の大きい作用力が影響し、アンカーが流れた。アンカー 120 g の場合、流速 23 cm/sec で波高 4 cm を同方向から作用させたところ安定であったが、波高 10 cm では最終的に移動した。流れ 23 cm/sec を逆方向から作用させ、波高 4 cm を同時に作用させたところベンは右から左に運動し不安定であった。10 cm 波高では右から左にアンカーが動いた。14 cm 波高でももちろん同一であった。

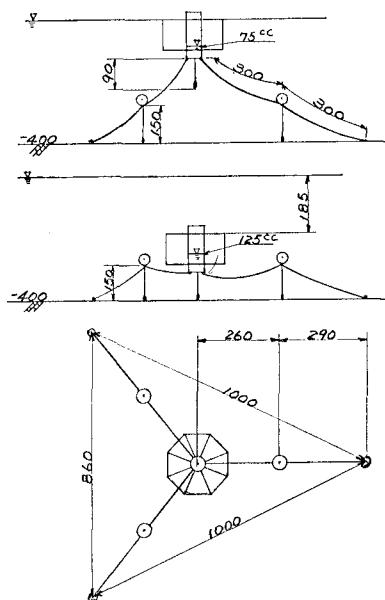


図-4 3点係留中間ブイカウンターウェイト付

### (3) 3点係留(中間うき付)カウンターウェイト付

図-4 に示される形状(立面, 平面)について、アンカーウェイト 80 g の場合で、流速 23 cm/sec についてのみ実験した。

#### a) 水面位置 (注入水量 75 cc)

23 cm/sec の流れのみで、前方の 2 点アンカーの移動はみられなかったが、後方の 1 点アンカーはもつれた。

#### b) 1/2 水深位置 -18.5 cm (注入水量 125 cc)

流れ 23 cm/sec のみの場合、ベンは右に傾き、3 点ともアンカーは移動した。流れをかえないと、波高 4 cm を同一方向から作用させたところ、標体と鎖はもつれ移動した。

### 4. 係留と作用波浪・潮流によるベンの水平運動、最大傾角、チェーンと地面とのなす角度の最大測定値と運動の軌跡

ベン重心の水平運動(Surge), 重心の上下運動(Heave), 重心の回転角度(Pitch), チェーンと地面とのなす角度を 8 mm 映写器による運動の記録からその軌跡を求め、それぞれの最大値を示すと表-4 のとおりとなる。

なおベン本体の波浪および潮流による運動軌跡(上下動、水平動)の一部を図-5 に示す。

#### (1) 1点係留、カウンターウェイト付

##### a) 水面位置

ベンの重心位置 G は底面上 5 cm, 浮心 C 7.5 cm, 傾心 M 7.61 cm, 総重量 294.8 g である。

Case ① 流れ 7 cm/sec の場合、傾角  $\theta$  は  $+5.5^\circ$  となつた。Case ② 流れ 7 cm/sec と波高 4 cm が同一方向

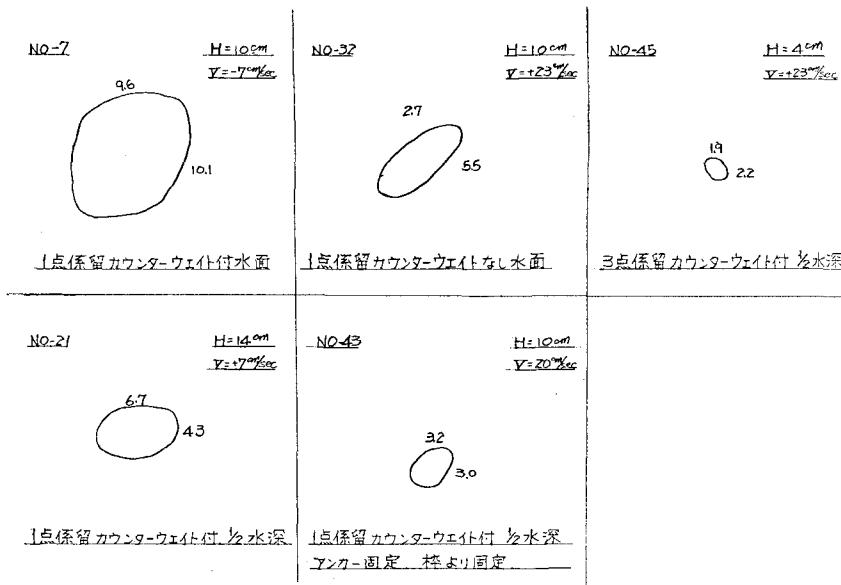


図-5 ベンの波浪と潮流による運動特性

表-4 係留と作用波浪、潮流による運動特性(水深40cm, チェーンの長さ80cm, 波浪周期1sec)

Case No.	係留方式		カヴァンダイト		注水量		高		波		潮流		流		アンカー量(g)	最大傾角Pitch(θ)	上下動Heave(cm)	水平動Surge(cm)	チエーン角度θ	備考	
	1点	3点	付なし	なし	80cc	100cc	4cm	10cm	14cm	+7cm/sec	+23cm/sec	-7cm/sec	-23cm/sec	○	○	○	○	○	○		
1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+11.0,-2.0	4.6	4.8	26.0	少々傾いて安定
2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	-	-	37.0	—	—
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+24.5	3.4	3.6	15.5	右から左へ流れられた
4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+44.5	2.2	3.4	19.0	—
5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	-4.5,-2.0	10.1	9.6	45.0	波力と潮流がつり合い不安定
6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	-	-	—	—	—
7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+20.0	6.9	9.4	19.0	傾いて右から左へ流れられた
8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+42.0	6.5	6.0	25.0	—
9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	-1.0,-2.0	8.4	8.2	—	波力と潮流がつり合い不安定
10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+4.0	—	—	—	少々傾いて安定
11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+11.5	2.2	5.0	9.0	—
12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+14.0	3.1	5.0	11.0	安定期
13	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+6.0,+1.0	1.0	2.4	—	—
14	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+40.0	3.0	3.9	8.0	傾いて安定
15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+54.5	1.2	1.7	8.5	—
16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+6.0,-4.0	2.6	6.7	—	—
17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	-	—	—	—	—
18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+42.5	3.6	7.0	5.0	右から左へ流れられた
19	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+59.0	2.4	4.8	10.5	—
20	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+12.0	4.3	6.7	9.0	—
21	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+7.0,+2.0	3.6	6.0	—	—
22	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	-	—	—	—	—
23	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+2.0	—	—	—	—
24	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+3.0,-7.0	4.6	3.4	24.0	傾いて、安定
25	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+7.0,-4.0	5.3	3.6	—	—
26	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+33.0	—	—	—	—
27	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+39.0,+32.0	2.4	4.3	25.0	右から左へ流れられた
28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+42.5	2.6	2.9	25.5	—
29	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	-	—	—	—	—
30	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+11.0,+4.5	8.4	9.1	30.0	右から右へ流れられた
31	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+42.5	5.5	7.7	24.0	—
32	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	-	—	—	—	—
33	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+23.5,+20.0	6.7	6.5	33.0	右から左へ流れられた
34	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+8.5	—	—	3.0	—
35	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+14.5,-0	1.4	3.1	—	—
36	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+47.5,+44.0	3.6	3.4	11.0, 8.0	右から右へ流れられた
37	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+64.5	1.2	1.9	8.0	—
38	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+11.0	3.6	6.0	11.0	右から右へ流れられた
39	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+48.5	—	—	16.0	—
40	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+57.5	2.4	4.8	12.0	—
41	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+46.0,+40.0	2.6	2.9	11.0, 12.5	右から左へ流れられた
42	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+10.0	3.0	3.2	14.0	—
43	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+47.0	—	—	—	—
44	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+40.0	2.2	1.9	—	—
45	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	40	+45.0	1.7	2.6	—	—
46	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	

から作用した場合、水平方向 +4.8 cm、上下方向 4.6 cm、傾角 +11°～−2°、鎖角度 37° であった。Case ④ 流れ −23 cm/sec、波高 4 cm の場合、水平方向 3.6 cm、上下動 3.4 cm と小さく、ペンの傾きは潮流方向に大きく、24.5° 傾いた。Case ⑤ 流れ 23 cm/sec、波高 4 cm で同一方向から作用した場合、ペンの傾きは 44.5° と大きく、ペンは海底面に押し下げられた。Case ⑦ 波れ逆方向から −7 cm/sec、波高 10 cm の場合、水平方向 9.6 cm、上下方向 10.1 cm、傾角 −4.5°～−2°、鎖角度 45° と流れ方向に傾いた。流れによって鎖と地面との角度が大きく揚し上げられた。Case ⑧ 流れをさらに大きく −23 cm/sec、波高 10 cm とするとペンの傾きは +20° と小さい。鎖角度も 19° となり、水平方向 9.4 cm、上下方向 6.9 cm であった。Case ⑨ 流れ +23 cm/sec、波高 10 cm の場合は、上下動 6.5 cm、水平動 6.0 cm と大きく、同一方向から作用するので、ペンの傾角は 42° と大きい。Case ⑩ 流れ −7 cm、波高 14 cm の場合、波高が大きいせいか、逆向きの力を打ち消し、波高 10 cm の場合より値が小さい。

以上のうち、最大の軌跡を描いたのは Case ⑦ の流れ −7 cm/sec、波高 10 cm であった。最小の軌跡を描いたのは Case ⑤ の波高 4 cm、流れ +23 cm/sec であった。なお Case ⑧ の軌跡はペンが定置できず流れた状態が示されている。

#### b) 1/2 水深位置 (付加注入水量 125 cc)

Case ⑫ 流れ +7 cm/sec、波高 10 cm の場合、上下動 2.2 cm、水平動 5.0 cm、傾角 11.5° と条件中最大値を示した。Case ⑬、Case ⑭ のアンカー重量を 40 g から 110 g にかえたところ、水平動は変わらなかったが、上下動は 3.1 cm と約 0.9 cm 大きくなかった。Case ⑯ 流れ −7 cm/sec、波高 4 cm の場合、最小の軌跡が示された。ペンの傾角 +6°、上下動 1.0 cm、水平動 2.4 cm であった。Case ⑮ 流れ −23 cm/sec、波高 4 cm (アンカー重量 120 g) の場合、上下動 3.0 cm、水平動 3.9 cm、傾角 40° であった。Case ⑯ 流れ −7 cm/sec、波高 10 cm の場合、水平動 6.7 cm と大きく、上下動 2.6 cm、傾角 +6°～−4° であった。Case ⑰ 流れ −23 cm/sec、波高 10 cm の場合 (アンカー 120 g)、水平動 7 cm と大きく、上下動 3.6 cm、傾角 42.5° と大きい値が示され

た。なお、アンカー 120 g でも移動した。Case ㉚ 流れ +23 cm/sec、波高 10 cm を作用させ、アンカーは固定した。この場合の軌跡は小さく、上下動 2.4 cm、水平動 4.8 cm 傾角 59° と最大の傾きとなった。これはアンカーが固定されていたためである。Case ㉛ 流れ +7 cm/sec、波高 14 cm の場合、上下動 4.3 cm、水平動 6.7 cm、軌跡は隋円である。Case ㉜ 流れ −7 cm/sec、波高 14 cm の場合、上下動 3.6 cm、水平動 6.0 cm、傾角 7°、軌跡は隋円である。最小の軌跡は Case ㉖ の流れ 7 cm/sec、波高 4 cm で Case ㉗ の流れ −23 cm/sec、Case ㉘ の流れ +7 cm/sec、波高 14 cm、Case ㉙ の流れ −7 cm/sec、波高 14 cm がほぼ同一であった。

#### (2) 1 点係留カウンターウェイトなし

Case ㉛～Case ㉟までの軌跡図の傾向は上下動が大きく示された。

#### (3) 1 点係留カウンターウェイト付、1/2 水深、アンカー固定、わく組よりチェーンで係留した場合

Case ㉛にみられるように、上下動 3 cm、水平動 3.2 cm、傾角 10° と安定した値が示された。

#### (4) 3 点係留カウンターウェイト付、1/2 水深、アンカー各 80 g

Case ㉕にみられるように、流れ +23 cm/sec、波高 4 cm に対し、上下動 2.2 cm、水平動 1.9 cm、傾き +40° であった。なおアンカーは各点 80 g である。Case ㉖、Case ㉗ と同一条件であるが、アンカーの各点重量を 120 g とした。上下動 1.7 cm、水平動 2.6 cm、傾角 45° であった。3 点係留であるからペンの運動軌跡図は小さい。

### 5. 結 言

波浪、潮流が同時に作用する場合、1 点係留、3 点係留カウンターウェイト付ペンは、水槽試験からは十分安定することが確認できた。しかし 3 点係留は現場実験の結果、設置に確実性を欠く場合もありうることがわかった。水深の点からも確実で容易に施工できる 1 点係留について、係留点をわく組からとった場合について、軌跡図からは安定した傾向を示しているので、さらに究明を進めていくこととしている。